

60年ぶり 復興の調べ



アールトネンの交響曲第2番

広島で再演

フィンランドの作曲家エルツキ・アールトネンの交響曲第2番「HIROSHIMA」が16日、広島市で60年ぶりに響いた。ヒロシマ関連の楽曲収集に取り組む市民グループ「ヒロシマと音楽」委員会が、眠っていた作品を見つけ、同市の被爆70年事業として広島交響楽団による再演が実現。遠く北欧から被爆地に思いをはせた曲に約700人が聞き入った。(余村泰樹)

高関健の指揮で、アールトネンの交響曲第2番「HIROSHIMA」を60年ぶりに奏でた演奏会

交響曲はアールトネンが原爆投下4年後の1949年に作曲。広島での演奏は、作者に曲を託された指揮者、故朝比奈隆率いる関西交響楽団(現大阪フィルハーモニー交響楽団)が55年、平和記念公園(中区)内にあった市公会堂で日本初演して以来となった。

この日、中区のJMSアステールプラザであった演奏会では、同委員会の能登原由美委員長(44)が「アールトネンと広島の人々が心を通い合わせた曲。音楽を

通じ、ヒロシマや核、未来への思いを共有する場になれば」と呼び掛けた。

その後、広響の元音楽監督・常任指揮者、高関健が指揮し、原爆投下の爆発音や、惨禍を乗り越えていく力強さを表現した音色を響かせた。

演奏会の後半は、被爆40年に團伊玖磨が作曲した交響曲第6番「HIROSHIMA」。ソプラノ並河寿美と横笛の赤尾三千子を迎え、広島再生や復興を高らかに歌い上げた。中国新聞社などの主催。